

学科名	生物環境化学科						
科目名	生物化学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	選択						
担当者	大貫宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の最小単位である細胞の小器官とその役割を説明できる ・水分子の極性をもとに、親水性と疎水性を解説できる ・糖質、タンパク質、脂質の生体における機能を説明できる ・生体機能を調節する酵素、ビタミン、ミネラルの機能を説明できる 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。</p> <p>第2回：細胞の構造と機能</p> <p>第3回：生体と水</p> <p>第4回：生体エネルギーのメカニズム</p> <p>第5回：糖質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第6回：タンパク質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第7回：脂質の構造、分類、性質および代謝</p> <p>第8回：核酸の構造、分類、性質および機能</p> <p>第9回：酵素の分類、性質、活性および速度論</p> <p>第10回：ビタミンの分類、欠乏症および補酵素としての役割</p> <p>第11回：ホルモンの構造、分泌器官、作用および分類</p> <p>第12回：ミネラルの役割や作用</p> <p>第13回：植物の機能や代謝</p> <p>第14回：物質の濃度</p> <p>第15回：総合復習</p> <p>定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	これまで学習した生物化学の知識を総復習するような内容であり、分かりやすく興味を持ってもらえたのではないかと考えている。しかしながら、テストの点数が思ったよりも良くなく、90点以上は1人もいなかった。より確実な知識を習得できるよう、試行錯誤したいと考えている。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合が8.7であり昨年度より0.2ポイント上がっており、昨年度からわずかの数値向上が見られた。年々改善がされいくよう心掛け、来年度に臨みたいと考えている。自由記述では、分かりやすいなど好意的な意見が多く、また中級バイオ試験の対策も兼ねたことも評価が高く、良かったことは継続したいと思った。						
履修登録者数	57名	定期試験 受験者数	54名	合格者数	52名	合格率	96%